

231-pm04

セルフメディケーション推進を目的とした専門学校におけるヘルスケア人材育成教育効果について

○伊藤 明紀¹ (1東京医薬専門学校)

【目的】セルフメディケーション推進が叫ばれる中、その中心的役割を担う薬剤師は、病院や薬局だけでなく、地域包括ケアシステムや企業、教育・研究機関などあらゆる場で適正なセルフメディケーションを推進する重要な役割が期待されている。セルフメディケーションは、大衆薬のほか健康食品や医薬部外品、化粧品など、健康・衛生・美容を含む様々な製品が利用されるが、近年、因果関係が疑われる健康被害も散見され、適正な知識を有する各分野の専門家の介在が不可欠である。そのため健康・医療関連製品の知識を体系的・横断的に駆使し、健康管理や自己管理治療に用いる製品の有効性や安全性を的確に評価・予測できる人材育成のためのセルフメディケーション教育が課題である。今回、医療職を養成する専門学校において、セルフメディケーションに必要な製品の知識を体系的・横断的に学び、生活者の状態に応じた適切な製品選択やトリアージを習得する取り組みを行ったので報告する。【方法】本校の登録販売者、ヘルスケアアドバイザー、医薬品研究開発者を養成するくすり総合学科、および化粧品販売者や研究開発者等を育成する化粧品総合学科の履修科目の一環である医薬部外品論受講者に、医薬品、医薬部外品、化粧品、健康食品の知識を体系的・横断的に学習させ、症例に応じ適切な製品選択やトリアージができるよう事例研究を行い、アンケート評価を行った。【結果・考察】セルフメディケーションについて、また各種製品の特徴や違いを十分把握しておらず、その境界が曖昧であった。病気・未病・健康の幅広い生活者の状態やニーズに応じた最適な製品やサービス、情報を提供できる医療関係者の育成が不可欠であり、今回の取り組みがこうした知識や技能の向上に有用なことが示唆された。